

私たちの

「城下町」

～未来へつながる町づくり～

1. はじめに

今私たちは、地球環境問題をはじめとするたくさんの問題を抱えています。2030年とは遠いようで近い未来です。しかしそんな近い未来でも、私たちが今ある問題に立ち向かい、生活を劇的に変化させることは出来ると思います。変化とは進化だけではありません。そこで私は、江戸時代の「城下町」に着目しました。

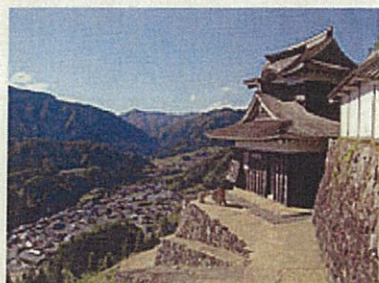


図1 健在する城下町



図2 城下町の地図

2. 江戸時代の城下町

江戸時代に入ると戦争や大きな内乱は減少し、防衛都市としての色合いは薄くなり、交易都市としての色彩を強めました。城下町の構造は付近を通る幹線道路のコースを、城下に通じるように付け替えることにより往来が城下を通り、商工業を活性化させる効果を狙っていました。また町割りは城を中心に、侍町、足軽町、町人地、寺町に分けられていました。

3. 抱える問題

- ・人口減少、少子高齢化
- ・地方中小都市の衰退
- ・エネルギー問題
- ・地球環境問題
- ・不況問題

4. これからの町づくり

4-1. わたしたちの「城下」

江戸時代の城下は活気があり、人と人とのつながりが深い、暖かい町だったと思います。その文化は今も受けがれています。それが私たちの「城下」、つまり「商店街」のことです。私は地域と結びつき、店同士が協力し合って経営している商店街を活かした町づくりの中に、これからの未来があると思います。商店街はお祭りやイベントなどを催し、地域を盛り上げてくれる大きな存在でもあります。しかし近年ではさまざまな要因から商店街の低迷がみられます。

4-1-1. 主な低迷の要因

- ・生活行動圏の広がり(徒歩、自転車→自動車)。
→無料駐車場の有無。
- ・消費者のライフスタイル、意識の変化。多様な店舗形態の登場。
→品揃えの豊富な大型店舗の支持。
- ・中心街から郊外への人口流出。

4-2. 生まれ変わる城下町～都市の中規模化～

現代や未来のニーズの変化に対応し、私たちの抱えている問題にも対処するためには「都市の中規模化」が適していると考えます。

中規模都市の特徴は交通を整備することにより自動車がなくても移動ができるので、自動車による排気ガスを抑えられるということです。また、主な移動手段が徒歩や自転車になるので、健康的かつ他人とのコミュニケーションがとりやすくなります。人と人とのつながりを大切にする事で少子高齢化や人口減少といった問題にも立ち向かえると私は考えます。そこでそれらの特徴を活かした町づくりを提案します。

4-3. 未来予想図と提案

1. 町の構成

- ①: 役所, 病院, 警察署, 消防署, 裁判所などの公共的な施設の地域
- ②: 商業, 事務所地区
- ③: 自然公園やスポーツ施設など
- ④: 小中学校, 高校, 大学, 博物館や科学館などの地域
- ⑤: 住宅区 ⑥: 商店街

2. 省エネ交通

- ・町の外周道路を主にバス運行とすることで、自動車の排気ガス量を低下させる。
→利用者を増やすために、「どこまでも100円」政策や定期の発行をする。
- ・中規模都の特徴を活かし、自転車の推奨や「レンタルサイクル」の普及化
- ・無料路面電車

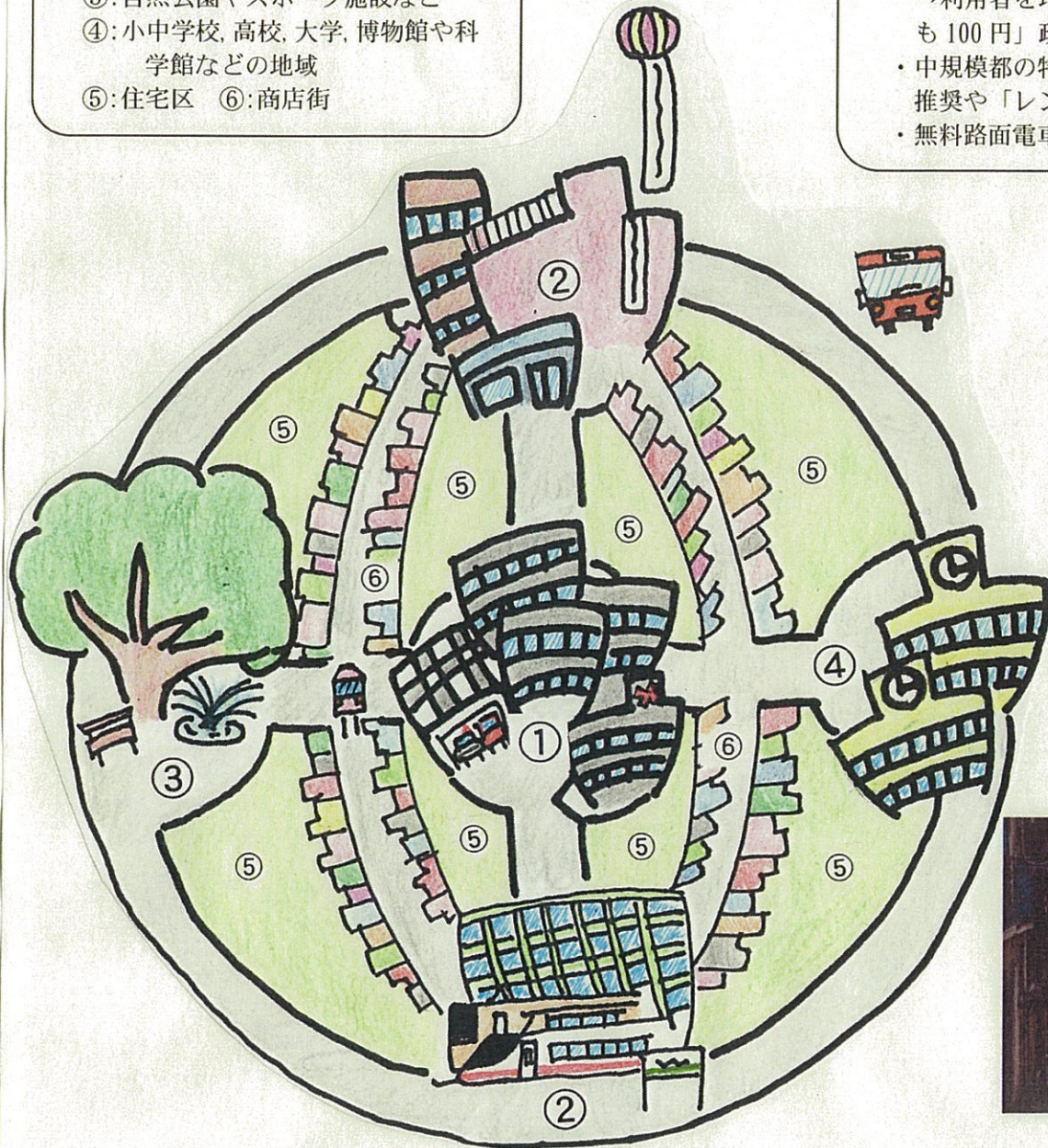


図3 未来予想図



図4 路面電車

3. 商店街から未来をつくる

- ・楽市楽座
→若い人たちでも自分で店を出せるように、店舗となる建築物を賃貸形式として建てる。政策として基本的な家賃を、低価格家賃+売上げの数%とすることで自由に営業ができ、お金の流通を良くする。また賃貸形式とすることでリフォームだけで店の入れ替えやニーズの変化に対応できる。
- ・グリーンカーテン
→両側の店同士からグリーンカーテンを掛け渡して商店街に屋根を作り、夏場の冷房機器の使用を低下させる。
- ・無料路面電車
→各商店街中央の路面電車の利用者を増加させることで、自動車による排気ガスを低下させる。また、買い物の際の荷物運びを支援する役割も担っているので、商店街利用者の増加につながる。

4. 建築物

- ・住まい
→住宅の一戸建てが住まいのゴールではなく、前項の「楽市楽座」でもあったように賃貸形式を主流とすることで同じような効果を得ることができる。
- ・太陽光発電システム
→図5にもあるように現在ではいろいろな所に設置可能で、故障が少なく長期的にも利用可能なソーラーパネルを、建築物に多用することでエネルギーを確保する。

図5 多種多用される太陽光発電システム



5. まとめ

私は提案の中で減少させるものを多く提案しました。それは現在の人たちが贅沢な生活に慣れすぎて、楽をしているからです。そのことを裏付けたのが原発問題です。原発が停止して電力不足が問題になったわりには、それなりに生活行動をできてしまっているからです。つまり私たちが普段少しだけ我慢をすれば、今抱えている問題を少しずつでも改善できるということです。そしてその行為を支援し、効果を高めることをできるのが建築家なのです

6. 参考文献

- ・ウィキペディア